

18
56
25



明治壬申五月 定價二匁

每週新聞 第十號

橫濱活版社

18
56
25



每週新聞第十號



千八百七十二年第五月十日ヘラルト新聞抄
譯

メナボリス(米國地名)海軍學校留學日本生徒之事
左の書狀ハアナボリス海軍學校乃長官よリ書記
官ロベーン氏へ贈てたる書狀にて同所に留學
せる日本生徒の狀態を説々
去れ十八日附之貴翰致披見候然ハカデットミツ
ドシツブメン(役持學生)ニ相成當海軍學校へ入學

每週新聞

十

一 眞實舌反土刊行

18
56
25

相成り日本人の事報知可致旨來意之趣致承知候
右ハ千八百六十九年第十二月中松村孫藏伊勢左
太郎と申者當學校へ入塾相成候處翌千八百七十
年第五月中例年の試業ニ兩人共更ふ記し置候失
無之昨千八百七十一年第五月例試之節も同様正
敷有之候

松村氏ハ第二箇年目ふハ同級四十六人之内數學
第八等ヘンシング(劍術)第七等化學第十一等佛學
第十五等航海學第四十一等繪圖學第二十六等地
理學第三十三等歴史第二十六等論理術第二十六

等ニ有之當節ニて其同級の内ニ善き地位に居
り申候來ル千八百七十三年ニハ必以大學校へ進
め可申候

左太郎ハ當國の語學充分ニ無之故其同級の内
ニ末席に有之候得共同人身持行跡ハ至極宜敷有
之候同人ハ或る私學校へ入塾脩業致候方可然見
込ニ當期限は始ふ法に隨ひ暫く當局を離し申
候

コロカカット云へる人ハ千八百七十一年第六月
中入校致し八十九人組合の級に入り申候同人去

18
56
25

は三ヶ月間位位地を平均左乃通有之候航海術
第三十八號算術第四十一等佛學第五十等歴史第
五十一等文法書第五十九等(ンシング)二十二等ふ
有之同人四十六等有之候
日本生徒の身持ハ已に申ふる通至極宜敷萬事
學校は規律ヲ叶ハ其行跡謹慎にして大いに稱譽
を受々候

右之者共何れを當學校カデットミッドシツブメ
ン(見上)の規則に従ハ致勤學且つ朝拜禮及ハ(サバ
ツ)休息)の神事を行ハ居此兩件ニ於てハ日本生徒

の狀態恭敬ニ身持シ全く吉利支門徒ノ劣ル事無
之同人共諸入費ハ總而其本國政府ニテ賄ハ候間
同人共手より學校の諸雜費ハ一切差出不申候入
校スル日本人ハ性質と勤學上ニテ得ル益と衆
人の内ヲ在テ是ニ染マラス様子を照準致候得ハ
日本ハ往々米國の爲メ大ニ美功を奏ハヘク並日
本乃少年ハ内幾名ハ吉利支教ニ從事スル事を許
次の會議ありハ他日吉利支教進歩の源淵スルハ
くと拙者致推察候ハ誤見トモ不被存候謹言
千八百七十二年第一月十六日

18
56
25

水師提督兼海軍學校校長官

シヨンエルウアルデン

華盛頓府海軍附書記官

ホンジラルジエムロベーンソン貴下

第五月十日ヘラルド

別林新聞紙に云く魯西亞政府よて海軍並貿易の爲めセバストボル港を再び開くべき事ふ決し兵營武器局軍艦修理場を其地に營と峽地の灣中入口等へハ總て臺場と築き半島中數ヶ所城郭と追々取建候へし

セバストボル迄達する鐵路ハ一个年程よて落成候へし

「巴里斯府新聞紙に云く巴里斯府よて結ハ依條約中に存せられセバストボルに臺場を再び築く事の箇條を廢れ候事を魯西亞政府よて決せしハ魯西亞日耳曼伊太利三國連結の説ハ一證と爲へし

第五月十八日ヘラルド新聞

投書左の説にハ我輩關係無之事

外國人への勒迫

日本政府より追々獨市の權を廢し是迄の舊弊を

除き且諸向の政事を改正決り赴き其局新聞中に見へた品内を抄録報知し

素よは日本より百般の事或一日は改革決り事ハ企て望むへきに非われとも退いて案決り舊弊を除き事業改正し日本大工諸約定人商人職人等年來外國人と取引之節日本政府後援を爲し一人其權を獨操せる事を斷然廢しへき時漸く至れりといふべし

日本大工一人の外國人よは家作仕事を請合へき約定を取結ぶ前より其權を獨操はれ者へ届々約定

面乃吟味を受て請負料二分五厘の割合を差出し並に約定書類翻譯の爲めに二分五厘を差出したる上なるは其職業に掛る事を得れば然已なり其落成の時贈物等の爲め二三分の割減費はれを得れば右諸雜費を通計せば七分或ハ八分減費はれを以て請負人右絞取れるは勘定を補て爲ふ其仕事乃勘定へ七八分の割を掛るは其を得れば故り畢竟外國人の方より七八分廉價可揚れへきを請負人其筋へ費や減爲る外國人の入費ハ其に從て嵩む是空しく外國人乃方にて其費

18
56
25

毎週新聞

神奈川新聞社刊

右外國人並日本人との際ふ入組ふる損傷の源因
を政府にて注意し速に其弊を除らむ事を是仰く
所ふに

千八百七十二年第五月十八日

啓詫子

ジャツバンヘラルト出板人御中

千八百七十二年第五月二十二日横濱

神奈川縣令閣下

疇昔閣下より建言せし防恙法の附録を謹て呈覽
しる事如左

- 一 日本に於て不純惡性なる藥品は販賣を禁止し
方法を設くべし
- 一 目下日本の患害ハ惡性假偽の藥品と賣買はる
より大なるをふし
- 一 病を治せざるを施しふる藥料純美ならんれハ
其病平愈せしむる事小童も能く知る所なり
- 一 患者ありて其病を痊愈せしめんと欲して用ひ
る薬品も不純假偽なれば倒て毒害とふり屢
人を死地と導く事舉て知るべし
- 一 由此觀之不純惡性の藥品販賣を制止しるの方

18
56
25

法ハ國民のため至重の緊要と決るなり
一就中本地の醫生ハ外國人より如此藥品を買受
々自ら其好歹を辨別し能く決之を病者ニ施し
者多々せハ最も謹戒しへき要務なり
一此患害を禁し或ハ變成を爲はせぬめ主張せし
旨趣ハ都て販賣し出し藥品ハ當然の検査を受
々若し此惡藥を販賣せし犯人あらハ之ヲ罰決
し
右ニ掲々し方法を貴國の政府ニて切要とせハ
速ニ其詳細を供給しる事欣喜しる所なり頓首

謹白

醫士 デー。ビー。シン。モン。ス

英人シヨンケイブラックより新聞紙出版之
儀ニ付東京府知事へ差出たる書翰寫
余謹テ閣下ニ願ふ今般官許を得る發決る處
の日新眞事誌ハ日本人民の開化を進歩せよ爲
める是れ
天皇陛下確然不拔の國體を創立し萬國と並立決
れ誠意に感激し始更日新ハ眞事を輯録し教化開
明之模様を首とせし政府諸省府縣乃命令布告並

18
56
25

諸工作學藝日新の景況諸國物産其豐凶物價乃
高低輸出入の物品其他海外各國其各件各事乃新
聞電信急報等悉く記載し能く中外其事情其明細
み揭示し人世有用必需の事件よき之其一目以
れハ世態日新の景況萬端瞭然とし其事物に接
はるか如く相知れ諸人乃耳目を新し知識其弘
め文明開化其助れ其要旨といは日本其爲め奮
然此其事業を企て巨多の財を費はも他なし只日
本人民を友視して早く開明の治と浴澤し宇内中
の俊秀知覺の人民あら其事を欲はれハかり然り

と雖とも余未ち日本ハ不案内として東京市街の
人民ちよを洽く新聞誌を配達はる手立を得は況
や日本全國へ流布はる如何して可ふるやを知ら
は依て政府並閣下の御助立を以て東京ハ勿論
日本國中へ速く流布し新聞誌の有益なは事を天
下一般へ告知せ其事を相願候新聞賣弘の方法夫
々御所置下はれ東京中何某へ幾枚何れの書肆何
程其他府縣何地何某へ何程と巨細御示諭なく下
はれ度は是れ余ら日本の爲め報國の志願を貫徹せ
其事を冀望は謹く回諭を待は恐惶敬白

18
56
85

東京築地よ於て千八百七十二年第四月三十

日

英人シヨンケーブラック

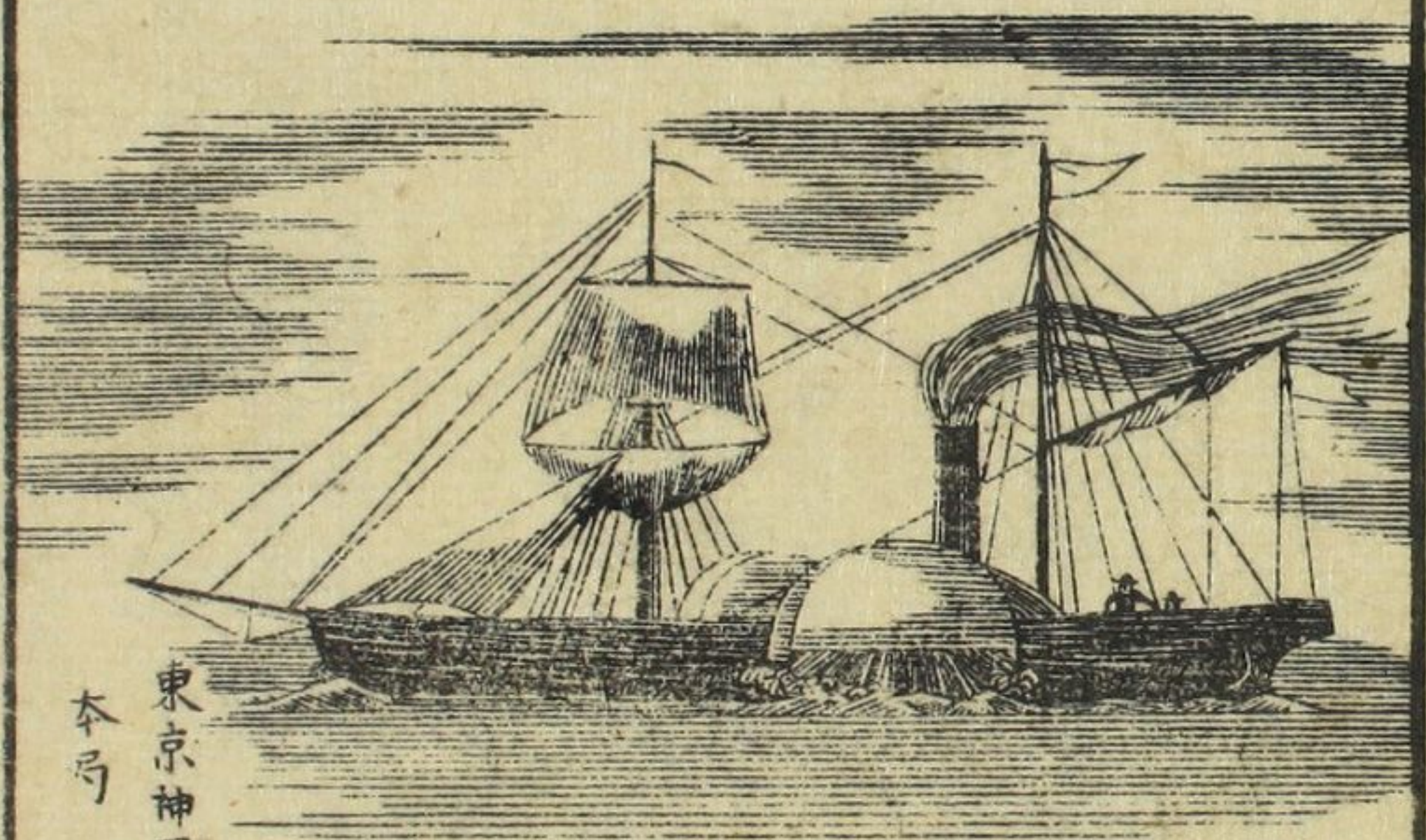
由利東京府知事公 閣下

毎週新聞第十號終

18
56
85

海外 翻譯新聞誌 各國

許官



東京神田區山町十五番地
本弓 信報堂

第六號

定價銀二匁五分

Vertical text on the right edge of the page, likely a library or collection stamp.